

秋の講演会



平成22年10月30日、鳥越隆士先生（兵庫教育大学：教授）をお迎えして秋の講演会が行われました。

台風14号が接近し雨風が心配されましたが、朝には雨も上がり、大阪府社会福祉会館に100人近くの参加者を迎え無事開催することができました。鳥越先生には、『K-ABCの結果から聴覚障害児への学習支援を考える』というテーマで講演をしていただきました。

参加していただいた方の感想を以下に掲載します。



参加者の感想

担任している幼児の実態把握のため、毎年K-ABCを行っています。K-ABCの結果をどのように保育場面で活かしていくか、個別指導でどう役立てていくか？悩んでいたのが、今日の鳥越先生のお話はとてもわかりやすく納得できるものでした。個々のプロフィールを解釈する視点も明確に教えて頂けたので、学習支援のあり方も具体的に考えていけそうです。ありがとうございました。

4月に知的からろう学校に異動してきましたが、聴力のことはすごく細かいが、子どもの総合的なアセスメントが十分されていないという印象を受けました。鳥越先生のような研究、取組をさらに進めていただいて、個々の子どもの実態に合った直接的な指導や支援を考えていくことが大切であるということをろう学校の先生にももっと広めてほしいです。検査実施の難しさはあるのですが、期待しています。

個別の指導に際するアセスメントとして、K-ABCを使った研究をきかせていただき、個をどう評価していくかの大切さを改めて感じました。仮説を立てて指導していくこと、指導経過を評価することも大事だと思いました。幼児のK-ABCについても、情報をききたかったです。

有意義な講演をありがとうございました。聾教育についての様々な研究が進んでいるにも拘わらず、現場は経験値によってのみ裏付けられた実践がほとんどのように思います。本日のご講演では聴覚障害児を分析的に理解することによって指導方法の妥当性を見出されようとしているお話を聞くことができました。これからの若い先生方が新しい教育環境の中でさらに新しい方法論を模索されて行くだろうと予想されました。

とても興味深い講演でした。臨床のSTから聾学校の教員になり、まだ3年ですが、このような研究結果を知りたいと考えておりました。先生のホームページも是非拝見させて頂きたいと思います。特に最後の質問にあった「数唱の手話提示」についての認知処理過程は本当に興味深かったです。学校現場も、経験則だけでなく、客観的評価がもっと必要ではないかと思いました。

スウェーデン、ノルウェーの現状のお話から、指導法を変えれば子どもの学力も変わるという訳ではなく、子どもの認知特性の実態を把握して丁寧に指導することの重要性を知らされました。次に具体的に K-ABC 検査の結果からどのような指導をするのかを考えることができました。どうもありがとうございます。

まだ、ろう教育の勉強させて頂き、少しの期間(2カ月程)しか経っていません。以前は、健常児の幼児教育をさせて頂いていました。先生のお話にあったように幼児期から小学校低学年までの時期の教育が大切であるということをおっしゃられました。この人間の基礎となる時期に K-ABC 検査で個々のプロフィールに応じた柔軟な教育を行っていくことと、健常児の学習指導要領に応じた教育を取り入れていくことも必要だと思いました。少し私にとっては難しい講演でした。もっと基礎的な勉強をきちんとしてから、また先生の講演を拝聴させてください。ありがとうございました。

バイリンガル教育や北欧での取組は知っていましたが、実際の学力結果を知って驚きました。ろう児に対する K-ABC 検査の難しさ、ろう児が苦手とする分野が聴覚障害の特性でもあるが、実際に行われた検査数値もあり、我々の指導法の影響もあるかな?と思いました。ろう学校の結果と難聴学級の結果、そして聴力レベルの差により、もっと結果に差があるのでは?と思っていたので、驚きでした。今後、更なるデータの上積みでどのような結果が出るか、それともやはり変化はないのか?気になりました。

発達検査をするにあたって、他の子どもと全く同じようにはできず、その結果が本当に正しいものなのか不確になるのかなと思いました。結果の数値だけみるのではなく、検査中の様子や結果の解釈がとても大切なのだとおもいました。とても聞きやすく、勉強になる講演でした。ありがとうございます。



今後の活動計画

今後の予定は下記の通りです。

平成22年12月4日(土) 事例検討会(大阪府立生野聴覚支援学校)

平成23年1月28日(金) 第3回代表委員会および専門研修会(奈良県立ろう学校)

29日(土) 冬の学習会(奈良県文化会館)

『乳幼児の格関係の理解について

- 格関係獲得の時期と過程を考える - 』

瓜生 淑子 先生(奈良教育大学)

『人工内耳の今日的課題 - 医療と教育の連携を中心に - 』

斎藤 宏 先生(帝京大学病院言語聴覚士)

集録第12号発行・機関紙35号発行

3月 中旬



近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局

事務局長 中井 弘征

〒639-1122

TEL: 0743-56-2921

奈良県大和郡山市丹後庄町456

FAX: 0743-56-8833

奈良県立ろう学校内

メール: kinki02062@hotmail.co.jp